



VOL.2

レギュラーガソリンとハイオクガソリンの違いは？



このコーナーではクルマに関する
為になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも!?

ガソリンスタンドに行くと、「レギュラー」「ハイオク」と明記されています。どちらのガソリンを給油するかは気分では選ぶのではなく、あくまでも「自動車に合ったもの」になります。一般的な乗用車にはレギュラーガソリンが燃料となりますが、輸入車やスポーツカーなど、走りにパワーを求められるものはハイオクガソリン指定の車両となります。



↑故障の原因にもなるので必ず自動車に合ったガソリンを給油しよう。

1 レギュラーとハイオクの特徴

レギュラーガソリンとハイオクガソリンの違いは、燃焼機関の違いです。ガソリンは着火するものですが、レギュラーガソリンとハイオクガソリンの違いは大きに言えば「着火しやすい」か「着火しにくい」ということです。着火しにくいハイオクガソリンは、着火する前の状態でエンジンを作動させますので、よりパワーを伝えることができますが、レギュラーガソリンは普通に消費しますので、パワーを出す必要がないのです。このように、ガソリンの種類の違いは特性の違いでもあります。



↑給油口に燃料の種類が記載されている。車検証でも確認できるがレギュラー・ハイオク共に「ガソリン」と記載されるので、給油口を確認しよう。「無鉛プレミアム」の記載があればハイオクだ。

2 もし種類の違うガソリンを入れたら？

「ハイオク仕様車にレギュラーガソリンをいれても大丈夫なの？」という疑問を耳にします。料金も基本的にはハイオクの方が高いので、ガソリン代で悩まされているドライバーの中にはハイオク仕様車にレギュラーガソリンを入れて…というケースもあるようですが、あまり推奨出来ません。ガソリンを車の血液に例えると、エンジンは車の心臓。レギュラーとハイオクのどちらなのかによって、車の心臓とも言うべきエンジンのポテンシャルを100%発揮出来るかが決まります。確かに、レギュラーの方が安いのでレギュラーの方が経済的…と思われがちなのですが、ハイオク仕様車にレギュラーガソリンを入れると「走らない」という事はありませんが、ガソリンの特性が異なりますので、逆に燃費が悪くなってしまいます。ハイオク仕様車にはハイオクガソリンを入れた方が燃費も良く、経済的なのです。

3 軽油の価格が一番安いから、一番経済的ななの？

レギュラーガソリン・ハイオクガソリンとは異なる燃料、「軽油」。トラックやバンなどに多く用いられるディーゼルエンジン車に使用します。レギュラーガソリンよりも価格が安いので、燃料費に関しては経済的ですが、軽油は「煤(スス)」が溜まりやすいため、適度にメンテナンスも行っておかなければなりません。最近ではクリーンディーゼル車の普及でディーゼルエンジンの評価も見直されつつありますが、かつてのディーゼルエンジンがあまり良い評価をもらっていなかったのは、ススがエンジン内に溜まり、そのススをしっかりと取り除かないとエンジンに負担がかかるからだったのです。この特性は時代が変わっても変わるものではないので、ディーゼルエンジンの自動車を購入した場合、ガソリン車以上にメンテナンスには気をつけるようにしましょう。

従来のディーゼルエンジンは不完全燃焼によるススや窒素酸化物が出やすく、排気ガスが汚い、音がうるさい、振動も大きい、エンジンが高回転で回らない、エンジン自体が重いというデメリットが存在した。↓



↑現在ではクリーンディーゼル車のシェアが高い。国産車では、マツダCX-5や、三菱エクリプスクロスなどが代表のクリーンディーゼル車。低速トルクを活かした力強い走りがディーゼル車の魅力の一つ。デメリットもあり、クリーンディーゼル車はチョイ乗りを重ねるとススが溜まり、エンジントラブルを起こしやすい。

